

We must remember that America cannot lead in the world unless here at home we weave the threads of our coat of many colors into the fabric of one America.

私たちが忘れてはならないのは、アメリカが自国において、私たちひとりひとりのまとう衣のいろいろな色の糸から、ひとつのアメリカという布地を紡ぎだせなければ、アメリカはリーダーとして世界を引っ張っていくことはできないということです。

We must... ~すべき

やまと言葉 must は、何かのルールや基準に照らして「~すべき」「~しなければならない」という響きです。ここは特に、価値観や信念から、「~しなければならない」と言っている感じです。

ロジック 「~すべき We must ...」と信念からかなりしっかり主張している響きですので、「ここがスピーカーの主張したいこと(=メインポイント)だな」としっかりと押さえて聞き進みましょう。

here at home 自国で

やまと言葉 home は、「その場所で生まれたり、その場所に長く滞在したりすることで、その人が“そこに属している”、“そこにルーツがある”と考える場所」という意味から、「我が家」、「生まれ故郷」、「故国」、「本国」などの意味で広く使われます。このように、国レベルの視点で話しているときは、国外に対して「自国」という意味で、home が使われます。

to weave the threads of our coat of many colors 身にまとう衣の色々な色の糸を織る

文法 the threads に of ~ の句が形容詞的にかかってくるかたちです。coat は「外套、皮、表面のメッキ」などの意味がありますから、「the threads of our coat 人々がひとりひとり身にまとっている衣の糸」という意味になります。さらに of many colors で修飾されていますので、「the threads ...of many colors いろいろな色の糸」ということになります。

やまと言葉 ここは、詩的な表現がされているので、アメリカの価値観に馴染みがないとピンとこないところかもしれませんが、「多様性」のことを言っています。「ひとりひとりが人種、宗教、性別、性的嗜好などの面で異なる色からなる衣を身にまとっている。けれども、それぞれがバラバラなかたちで存在しているのではなく、一人ひとりの衣から取った、様々な色の糸でひとつの『アメリカ』という布を織ることが重要だ」と言っているのです。

the fabric 布地

As we become ever more diverse, we must work harder to unite around our common values and our common humanity. We must work harder to overcome our differences, in our hearts and in our laws.

私たちの社会がますます多様になっていく中で、われわれは一層の努力をもって、共通の価値観、共通の人間性を絆にひとつにならなければなりません。一層の努力をもって、ひとりひとりの心の中においても、国の法においても、人々の違いを乗り越えていかなければなりません。

diverse 多様な

やまと言葉 人種、宗教、性別、その他いろいろな面で多様な人を抱えていることを指しています。

we must work harder 我々は一層の努力をする必要がある

ロジック 「多様性を乗り越え、利点として、ひとつの国として一致団結する必要がある」というメインポイントに対するサポートがきました。具体的に「つまり、どうしなければいけないのか」を説明してくれています。メインポイントが、とても詩的な表現でピンとこなかったかもしれませんが、論旨を追って、落ち着いて先を聞くことで、具体的に説明してくれているサポートの方から逆に意味を汲み取ることもできます。

common values 共通の価値観

やまと言葉 common は、「多く見られる」がコアの意味です。そこから「共通の」、「一般的な」、「ありふれた」など

色々な意味で使われます。common values とは、「人々が共有している価値観」という感じです。

common humanity 共通の人間性

やまと言葉 humanity とは、「人間であること、人間として生きること」に対する考え方や信念という感じです。common humanity ですから、ここも「人間であること、人間として生きることに対して、人々が共有している考え方や信念」のような意味になります。

we must work harder 我々は一層の努力をする必要がある

ロジック 2つめのサポートも、We must work harder と1点目と同じかたちでまた文が始まっていますね。このような場合は、前と同格でもう一点目を言ってくれる可能性が高いですから、聞き取りのヒントにしましょう。

We must treat all people with fairness and dignity, regardless of their race, religion, gender or sexual orientation, and regardless of when they arrived in our country,

すべての人を人種、宗教、性別、性的嗜好にかかわらず、わが国にいつやってきたかにかかわらず、公正さと尊厳をもって扱わなければなりません。

We must 我々は～しなくてはならない

ロジック このように、一点目 We must (work harder) ...二点目 We must (work harder) ...ときて、We must ... と前と同じかたちで文が始まった場合、もう一点、3点目として言ってくれている可能性が高いです。聞き取りのヒントになりますね。また、英語では、具体例などを挙げる場合に3つ項目を挙げるのがすわりがいいとされていることもヒントになります。2点目までくると、もう1点挙げてくれる可能性が高いぞ・・・と思いながら聞き進めましょう。

to treat ~ with fairness and dignity 公正さと尊厳をもって扱う

パターン表現 to treat ~ with ... で決まった言い方です。人やものを扱ったり、接したりするときに、「どうかかたちで扱うか」を with 以下に具体的に言うかたちです。to treat モノ with care (慎重に扱う)、to treat 人 with respect (敬意を持って接する)などのように使います。

やまと言葉 fairness 「公正さ、フェアさ」は特にアメリカの文化で非常に大切にされている価値観のひとつです。「ものごとのプラス面・マイナス面含め、偏りなく全体をきちんと見ること」が fairness だと考えられています。ここは「人種、宗教、性別、性的嗜好、いつ国にやってきたか、などの要素に左右されることなく、同じように扱う」ことを言っています。

dignity は「尊重に値する尊さと価値があること(状態・様子)」というのがコアの意味です。そこから派生して、人の様子なら「威厳」、人のあり方や人柄であれば「品位、尊厳」、自分の内面についてなら「自尊心」などの意味になります。要は、人から見る場合も、自分で見る場合も、「尊重に値する価値がある」と感じられる状態が dignity で、「それに見合うように」、あるいは「それを反映するかたちで」何かをする場合に with dignity という表現を使います。

sexual orientation, 性的嗜好

やまと言葉 アメリカの文化では多様性の1つと考えられている要素で、例えば、よく議論になる点としては、ホモセクシュアルの権利などがこれに含まれます。

and always moving toward the more perfect union of our founders' dreams.

そして、常に、われわれの建国の父たちの夢みた至高の統合に向けて進んでいなければいけません。

our founders' dreams 建国の父の夢

ロジック ここも、「具体的にどうしなくてはならないのか」のサポートと理解しても問題はありません。ただ、ここでは別のサポートとしての理解にしました。今まで語ってきた価値観をすべてまとめたような「建国の父達の夢としての、至高の統合」という非常に重い理想について言及しているので、「重み付け」のサポートとしてとらえる方が、英語的な話し方の特徴をつかんでいると思えるからです。「多様性を乗り越え、それを利点としていかして、国として団結する」というメインポイントの意味合い、重みをアピールしているという理解です。